

ヘルスマーター

ワクチン接種と認知症

ワクチンは人類に多大なる恩恵をもたらしましたが、健康被害の発生は0%ではないため、一部の方は医療従事者も含めてワクチン接種に反対の立場をとられています。しかし、ワクチン接種には認知症を予防する効果もあるかもしれません。

2022年8月に報告された、テキサス大学のグループによる論文では(J Alzheimers Dis. 2022; 88(3): 1061-1074)、インフルエンザワクチンを接種したグループでは、接種していないグループと比べて、認知症の発症が40%低下したと報告しています。65歳以上の方が対象で935,887人のインフルエンザワクチンを接種した群、同人数のインフルエンザワクチンを接種していない群に分けて、後ろ向きに追跡調査をしたようです。インフルエンザワクチンを接種していない群では、79,630人(8.5%)の方が認知症を発症しましたが、インフルエンザワクチンを接種している群では47,889人(5.1%)でした。

このグループは2023年9月にも更に他のワクチンの認知症に対する有効性を示唆する論文を発表しています(J Alzheimers Dis. 2023; 95(2): 703-718)。この報告によると三種混合ワクチンで30%、帯状疱疹ほうちしんワクチンで25%、肺炎球菌ワクチンで27%、認知症発症リスクが低下したとされています。

この結果だけで、ワクチン接種は認知症発症の予防効果があると断定することはできません。あくまでも可能性があるというだけです。

そもそもワクチン接種にどうして認知症の予防効果があるのか、その作用機序も明らかにはなっていません。一説として、インフルエンザワクチン接種は、ミクログリア(中枢の免疫細胞)の活性を高めてアミロイドβを除去し、神経炎症を減少させ、最終的に認知症の発生率の低下を促進する等とされてはいますが、現状では不明です。

新型コロナワクチンに関してはどうなのか?まだ歴史が浅いこともありそのような知見は得られていないようです。ワクチン接種に当たり皆さんの参考になれば幸いです。